令和4年度　北海道遠軽高等学校　**全日制課程**　学校関係者評価

1　本年度の重点目標

《３つのTRY》
1　学び方の転換　→　「主体的で対話的（協働的）な探究（学習）
2　論理的思考様式の育成　→　「読解力と表現力がキーポイント」
3　これからの社会を創る市民を養成　→　「アクティブシティズンシップ」

2　育成を目指す資質・能力

1　自己の人生を切り拓くことができる生徒（主体性）
2　自立し、他者と協働しながら新たな価値を創造することができる生徒（創造力）
3　地元を愛し、心豊かで人を思いやることができる生徒（コミュニケーション能力）

【評価】よく当てはまる　4　　少し当てはまる　3　　あまり当てはまらない　2　　当てはまらない　1

領域	No.	評価の観点	生徒	保護者	教職員	課題	改善の方策
学校運営	1	学校教育目標は家庭や地域の願いに応えたものになっていると思う。	3.2	3.1	3.3	・学校教育目標実現のため、育成すべき資質、能力を明確に示し、スクールミッション、スクールポリシーに反映させ、グランドデザインを創りあげた。今後は、各中学校や家庭を始め、地域との共有を高めるとともに、新しい時代に向けて内容を更に検討していく必要がある。・いじめに対する認識について、職員と保護者間で乖離がみられる。・情報発信の方法について、満足していない保護者がいる。	・「社会に開かれた教育課程」実現のため、地域との連携を一層深め、地域創生に結びつく教育を実践する。教育活動の内容をＳＮＳなどを有効活用し発信する。・言語環境の整備や情報モラル教育、また、他者理解力の向上など、道徳性や社会性を向上させ、いじめのおきない風土を創りあげる。いじめの認知力を向上させる。・ClassiやＨＰ、またBYODを有効活用し、確実な情報発信に努める。
	2	授業の配置などの教育課程は生徒の進路実現に応えたものになっていると思う。	3.4	3.2	3.4		
	3	遠軽高校は、いじめのない学校だと思う。	2.9	2.8	3.1		
	4	学校は、教育活動などを積極的に情報発信していると思う。	3.3	2.8	3.4		
	5	HR担任や部活動顧問、関係教職員は、保護者と連携が取りやすい環境にあると思う。	3.1	2.8	3.3		
	6	教職員の言葉づかいや態度、電話の応対などは、適切に行われていると感じる。	3.3	3.3	3.3		
	7	あなたは、学校から配付されるプリントなどを、保護者に必ず見せている。（指導している。）	3.2	2.8	3.5		
	8	遠軽高校に入学して良かったと思う（指導をしている）。	3.2	3.3	3.3		
学校関係者評価		地域に根ざした教育活動の一層の充実に期待する。ＳＮＳなどを通じ、情報発信をより充実させる。					

領域	No.	評価の観点	生徒	保護者	教職員	課題	改善の方策
学習指導	9	全ての授業において、基礎的・基本的な知識・技能の定着が図られていると思う。	3.3	2.9	2.9	・家庭学習の定着に課題が見られる。・保護者の評価が、生徒、職員に比べ、低い傾向にある。・生徒、教員自身も学力の向上には課題を感じているものの、授業展開や講習等、学習指導全般については創意工夫し、適切に行われていると感じている。	・観点別評価の目的である「指導と評価の一体化」を進め、評価を生徒の学びの振り返り、教員の指導計画の見直しの契機として、学力の着実な定着を図る授業を実践する。・ICTを活用した、家庭学習教材の配信などの工夫・外部検定で好成績を収める生徒が増加しているので、その結果も積極的に発信する。
	10	予習・復習や学習課題など、家庭学習に取り組んでいる。	2.6	2.8	2.8		
	11	今年度になって、学力は向上したと感じる。	3.0	2.8	2.8		
	12	全ての授業において、教員は適切な態度で授業を行っていると思う。	3.3	3.0	3.4		
	13	本校の学習指導は、適切に行われていると感じる。	3.3	3.0	3.2		
学校関係者評価		生徒の学習意欲を喚起する努力をしている。家庭学習習慣の定着を図る工夫が必要である。					
生徒指導	14	教職員は、積極的に声をかけたり、悩みを聴いたりするなど、生徒理解に努めている。	3.1	3.0	3.4	・面談や教育相談の実施件数は増加しており、学校ではきめ細かに対応しているが、課題解決に時間がかかることが多い。・粗暴行為等は発生していないが、他者理解や配慮に欠ける言動により、相手に精神的苦痛を与えてしまうケースが見られる。・集団になじめない生徒への対応が増えている。	・学校教育全般を通じて、人間としての在り方、生き方を考えさせる「道徳教育」を充実させる。・多様化する生徒への指導や支援の体制を構築する。・教員と生徒、更に家庭との連携を更に深め、情報共有しながら指導や支援を行っていく。特に、解決までに長期間かかる場合は一層の連携強化を行う。
	15	学校は、挨拶、服装、頭髪など、社会のルールやマナーなどについて適切に指導していると思う。	3.1	3.0	3.2		
	16	あなたは、学校の生徒指導について理解している。	3.2	3.1	3.0		
	17	学校は、教育相談や面談週間の実施などによって、生徒の悩みや不安の解消に努めていると思う。	3.2	2.9	3.5		
	18	本校の生徒指導は、適切に行われていると感じる。	3.2	2.9	3.3		
学校関係者評価		学校は校則を守らせる努力をしている。生徒の状況は概ね良好に見える。					

領域	No.	評価の観点	生徒	保護者	教職員	課題	改善の方策
進路指導	19	学校は、進路実現に向けて、生徒が主体的に取り組む態度を育成していると思う。	3.3	3.1	3.3	・学校でのきめ細かな進路指導（面談や講習等）により、生徒からの評価は安定している。今後は、家庭との連携をより強化し、進路指導の充実を図っていく。・進路に関する膨大な資料や情報を教員が整理し、生徒に提供する。その「整理」の部分に多くの労力が必要だが、生徒や保護者には見えない部分である。	・ICTを用いた効率的な進路情報の提供を推進する。・ネット出願等も増加する中で、出願準備については生徒本人が行うことが多くあるため、事前の指導と家庭への情報提供を充実させる。・検定取得が大学入試の大きな評価材料になっていることを保護者にも理解してもらう。
	20	学校は、模試などへの参加を促し、その結果を分析して進路指導に生かしていると思う。	3.4	3.0	3.4		
	21	学校は、生徒の進路希望に応じたきめ細やかな指導をしていると思う。	3.3	2.9	3.7		
	22	学校は、進路について必要な情報を提供していると思う。	3.4	3.0	3.7		
	23	本校の進路指導は、適切に行われていると感じる。	3.4	3.1	3.5		
学校関係者評価		的確な指導が出来ているが、指導状況について、保護者との共有を強化したい。					
健康・安全指導	24	学校は、教科や学校行事、部活動などで、心身の健康と安全について適切に指導していると思う。	3.3	3.0	3.5	・教育活動全般を通じて行っている健康、安全教育により、生徒や職員の評価は安定している。今後は、家庭や下宿での生活状況についても、保護者との連携を深めて指導していく必要がある。	・学校生活だけでではなく、家庭や下宿での過ごし方についての健康、安全教育を充実させる。・BYODが進む中、情報モラル教育やVDT症候群予防に関する教育を充実させる。
	25	学校は、生徒が体調不良や怪我などをした場合、適切に対応していると思う。	3.4	3.2	3.4		
	26	あなたは、睡眠、食事、時間を守るなど、規則正しい生活習慣が身についている。	3.2	2.9	3.1		
	27	学校は、スマートフォンやインターネット、ＳＮＳ等の使い方について適切に指導していると思う。	3.3	2.9	3.2		
	28	本校の健康・安全指導は、適切に行われていると感じる。	3.4	3.1	3.5		
学校関係者評価		学びを支える家庭との連携を一層強化し、健康、安全指導の充実を図る。					

領域	No.	評価の観点	生徒	保護者	教職員	課題	改善の方策
教職員	29	各分掌間の連絡・相談等が十分になされている。	－	－	2.7	・各分掌間の連携や情報共有について、課題がある。・産業医との面談実績も少なく、各自の健康管理についても懸念がある。	・業務の情報化（ＤＸ化）の推進により、組織構造や業務内容をスリム化することで、連携や情報共有の強化を図る。・管理職から声をかけたり、休暇取得を推奨（年休・年間15日以上）するなど、リフレッシュできる環境や雰囲気をつくる。
	30	悩みや不安などを相談できる職場環境となっている。	－	－	2.9		
	31	心身の健康について、自己管理ができている。	－	－	3.1		
学校関係者評価		部活動指導等、休日も指導に従事している。長時間勤務にならないような配慮も必要である。					
危機管理	32	教職員や生徒等の個人情報を持ち出さないなど、適切に保護している。	－	－	3.5	・コンプライアンス確立月間のみならず、年間を通じて規範意識の向上を呼びかけている。	・職員の人権意識や教育的愛情、使命感や倫理観の向上について、継続的に取りくんでいく。
	33	部活動会計や生徒会費の請求等、適切な会計処理を行っている。	－	－	3.6		
	34	問題や事故の発生時など、速やかに管理職に報告している。	－	－	3.7		
学校関係者評価		コンプライアンスの確立について、職員の意識向上に努めている。					
施設設備	35	施設設備の維持管理が適切に行われている。	－	－	2.7	・校舎の老朽化がすすみ、施設の不具合が見られる箇所が多い。	・不具合箇所の周知を職員、生徒に徹底し、事故防止に努める。
	36	施設の補修や設備の補充が十分になされている。	－	－	2.3		
学校関係者評価		校舎の老朽化に対して、不具合箇所の周知などを行い、安全管理に配慮している。					
働き方改革	37	業務の見直しやClassiの活用による業務の効率化等により、時間外勤務の縮減に努めている。	－	－	2.4	・業務や授業の情報化について、一層の推進が必要である。部分的には進んでいるが、時間外勤務の大幅な縮減には至っていない。	・学校組織全体で情報化を進め、デジタルトランスフォーメーションを実現させる。 ・業務内容の精選も合わせて行い、働き方改革を推進する。
	38	道教委のモデル別教材などのICTを活用し、授業準備等の負担軽減に努めている。	－	－	2.6		
学校関係者評価		教育のＤＸ化、職場環境のWX化を進め、改革の推進に繋げたい。					